

医療

帯状疱疹ワクチン助成は慎重に検討



答弁中の平松町長

問

帯状疱疹は、水疱瘡と同じウイルスで起きる皮膚の感染症で、80歳までに3人に1人が罹るそうです。痛みのみならず、後遺症や合併症もある、厄介な病気です。

今は、ワクチンの効能も上がり、接種により、軽症で済み、後遺症予防にもなるとされています。50歳を過ぎると発症者が多くなります。帯状疱疹ワクチン接種を啓発し、

答

費用を助成することで、町民の生活を向上できると思えますが、町長の考えを伺います。

答 舛本健康増進課長

帯状疱疹は、感染症法に基づく施策として位置づけられた感染症発生动向調査の対象疾患ではないため、罹患者の数は把握できていません。国は、帯状疱疹ワクチンの定期接種化について検討しており、

現在、継続審議中です。須恵町の独自の助成については、国や県、近隣市町村の動向を踏まえながら慎重に検討していきたいと考えています。

答 平松町長

帯状疱疹ワクチン接種の費用の助成は、機運が盛り



田の上 真 議員

安全

自転車事故を防ぐには啓発活動を実施

上がったときに1市7町の首長が同意して、医師会に相談する運びが一番スムーズなの

かなと思います。現在は、まだ行う機運にないと考えます。

問

自転車事故を心配する声が多く届きます。車相手ではなく、自転車と歩行者の接触事故です。自転車は、車に対する弱者ですが、生身の歩行者に対して、金属の自転車は、ある意味危険な存在です。そして、運転者自身も時に無事では済みません。自転車と歩行者の最大の接点は歩道です。狭い歩道での接触は大変に危険をとまぬいます。また、歩道の切れ目、横断歩道なども危険箇所です。行政としての対策を伺いたいと思います。

答 諸石総務課長

自転車事故の防止対策として、自転車教室や年4回の交通安全運動などに際して、警察などの関係機関と連携し、啓発活動を実施しています。自転車と歩行者の交通事故を含め、交通事故対策は、道路環境の整備、交通安全教育、交通指導取締りなどを総合的に進めていく必要があります。

答 平松町長

町として何ができるかと考えた時、町の広報紙に自転車のマナーを守るよう記事を掲載したり、期間を決めて各駅でキャンペーンを行ったりするしかないのではと思っています。

福祉

認知症患者に対する支援は長期的な支援計画を

問

わが国の認知症患者の数は、2025年には、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達することが見込まれています。認知症の人が単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人に寄り添いながら、認知症と共によりよく生きていくことができるよう環境整備を行うことが求められています。

答 安河内福祉課長

住民の皆さまに認知症への理解を広めるとともに、認知症の人とその家族を支援するため、現在行っている事業の継続に努めます。また、認知症を未然に予防することが重要であると考えています。

歳を重ねても、認知症になっても、いつまでも住み慣れた地域や自宅で暮らしたいと願うところです。高齢者などへの支援内容を知ってもらうために、今後の支援方法の計画をお尋ねします。

レットを使用した脳トレを行なっています。今後も継続し、新しい情報を取り入れながら対応したいと思います。

答 平松町長

担当課を通して町内の各医療機関の先生とも話をし、長期的な支援に立った上で行っていきたいと思います。

また、厚生労働省の老健局介護保険課へ2年間ずつ職員を派遣し、専門性を高めて町に戻ってきます。職員として、専門的な能力を持った人間をつくらなければならないと医療機関とのやり取りもできません。派遣した職員は、厚労省で得たネットワークで、いろいろな情報を集めながら、須恵町の介護事業に生かしていきたいと思っています。



百田 輝子 議員

現在、介護予防事業わくわくデイサロンでは、受講者への10分間の簡単な脳トレやタブ



総務省統計局「統計とグラフNo.132 統計から見た我が国の高齢者～「敬老の日」にちなんで～」より抜粋

町政を問う！